

▼メトレレプチン皮下注用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】メトレレプチン（遺伝子組換え） metreleptin (genetical recombination) 【分類】遺伝子組換え型ヒトレプチン製剤 [脂肪萎縮症治療薬]

【単位】▼11.25mg/V

【常用量】■男性：0.02mg/kg から開始し1か月程度で0.04mg/kg まで増量

■18歳未満の女性：0.03mg/kg から開始し1か月程度で0.06mg/kg まで増量

■18歳以上の女性：0.04mg/kg から開始し1か月程度で0.08mg/kg まで増量

それぞれ症状に応じて適宜減量

【用法】注射用水2.2mLを加えて溶解し、腹部、大腿、上腕、臀部等に皮下注

【透析患者への投与方法】設定されていない(1)

【保存期CKD患者への投与方法】腎臓から排泄されると推測されており、高い血中濃度が持続するおそれがあり慎重投与(1)

【特徴】ヒトレプチンのN末端がメチオニル化されたヒトレプチンアナログ。脂肪萎縮症患者でのHbA1c及びトリグリセライドの低下が認められる。レプチンは、脂肪組織より分泌されるホルモンであり、摂食抑制、エネルギー消費亢進、インスリン感受性亢進、脂質代謝亢進などの作用がある。血中濃度測定値には内因性レプチンが含まれている。

【主な副作用・毒性】過敏症、注射部位異常、頭痛、悪心、脱毛、体重減少など

【安全性に関する情報】突然の中止により急性膵炎の報告(1)

【F】資料なし(1)

【tmax】2～3hr(1)

【代謝】資料なし(1)

【排泄】主に腎臓から排泄 [マウス](1)

【CL/F】0.1～0.2L/hr/kg(1)

【t1/2】10～20hr(1)

【蛋白結合率】資料なし(1)

【Vd】資料なし(1)

【MW】16155.44

【透析性】資料なし(1)

【O/W係数】資料なし(1)

【相互作用】血糖降下剤との併用注意(1)

【更新日】20160204

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。